

公的統計マイクロデータ研究コンソーシアム第19回運営委員会
議事録

- 1 日時 令和4年5月25日(水) 15時30分～17時30分
- 2 場所 オンライン会議(ZOOM)
- 3 出席者 (運営委員) 南委員長、伊藤副委員長、赤谷委員、稲垣委員、高部委員、
中村委員、山下委員、岡本委員
(オブザーバー) 伊原氏、佐藤氏

4 概要

(1) 前回の議事録の確認

第18回運営委員会(オンライン)の議事録について、資料3に沿って概略を説明・確認し、本議事録の公開について審議した。再度確認した上で特に異議がなければ、来週中に議事録の匿名化バージョンを公開することとする。

(2) 第1号議案：運営委員の交代について

職務担当変更に伴う運営委員の交代について、資料2に沿って説明があり、2名の運営委員の交代を審議し、了承した。

(主な意見)

- 役職指定ということだが、旧運営委員と新運営委員とでは役職が異なる。何か理由があるのか。
→ 旧運営委員は役職を兼務しており、正確にはもう一方の役職指定ということとなる。
→ 承知した。
- 承認日時は役職指定のため人事異動があった4月1日としたいという事だったが、規約上で役職指定と決まっているわけではないので、承認日時を遡る必要はないのではないか？今回のようなケースも考えられるので、運営委員会で確認をしながら交代するようにした方がよい。
→ 本日の運営委員会承認時点で運営委員の交代とする。

(3) 第2号議案：公的統計マイクロデータ研究ワークショップ開催企画案について

公的統計マイクロデータ研究ワークショップについて、資料4に沿って企画案を説明し、議論した。

(主な意見)

<ワークショップの構成と開催日程について>

- 午前中の内容は、対象となる大学院生や若手研究者以外にも興味がある内容なのではないか。午前中の内容はワークショップ参加者だけでなくコンソーシアム会員にも公開し、午後はワークショップ参加者のみで対面実習するといったように、分けて実施してもよ

いかと思う。

→ 午前と午後を分けて、どちらか一方でも受けられるような提供形態を考える。

- ワークショップとシンポジウムの日程が近いため、シンポジウムのチュートリアルセッションとのすみ分けが課題となる。また準備する側のエフォートの心配もある。
 - ワークショップとシンポジウムを重複する人は大変になってくると思うが、まずは具体的に誰が担当するかを詰める必要があると考える。
 - シンポジウムのチュートリアルセッションはオンサイト施設の運営にフォーカスした案を考えており、2名ほど想定している。
 - シンポジウムとワークショップは内容が違うので重複している感じはしないのではないか。資料があるので準備にはそれほど負荷がかからないと思う。
- 共同研究集会と日程が近いためそちらへもリソースが必要となり、時期的に厳しいという懸念がある。
- 午前と午後を別日にしてもよいのではないか。例えば午後の内容は3月頃に対面で実施し、午前の内容は別日にオンライン開催とすると日程調整もしやすいのではないか。
- 別日にした方が負荷分散という面でも日程調整の面でも進めやすいと思う。
ワークショップ開催の方針としては、午前の部と午後の部を別の日に開催し、シンポジウムと日程を離して実施する。具体的な日程については一旦保留とし、更に内容を詰めて講演候補者を検討し、その後日程調整する形で進める。

<プログラム（講義形式）について>

- 午前の部の「公的調査の概要」については、どなたに説明してもらうのがよいか。
 - プログラムの内容や講演者については、一度案を作り、日程も含めて検討させて欲しい。
- 資料4にある統計調査ニュースに載っている分析事例というのはどのようなものか？
 - 統計 TODAY183号「新型コロナの家計への影響」の記事だと思う。
<https://www.stat.go.jp/info/today/pdf/183.pdf>
 - こちらの記事は一般的な内容で分かりやすい形で分析している。ぜひ講演できればと思う。
 - こちらも併せて検討する。
- 「二次的利用の制度」についての講演は問題ないか？
 - 今のところ問題ない。

<プログラム（実習形式）について>

- 現在、擬似的なデータを教育利用にむけてどのように活用していくかという研究を進めており、午後の部はそれを念頭に置いて実施する。間に合えば現在作成している新しい擬似的なデータを利用しようと考えている。また本物のマイクロデータについても話ができるよう、符号表やカラム名の付け方などについても説明を予定している。

- 午前と午後を別日程にするのであれば、半日に限らず希望であれば1日にすることもできる。
→ 自分としてはどちらでも構わない。
- ワークショップの目的を公開するのであれば、公開時に誤解のない用語を指定する必要があるのではないかと。案の中では「パブリックユースの擬似データ」とあるが、この言葉を使うことが適切かどうかということを含める必要がある。
→ 海外で使われているパブリックユースのデータと勘違いされる恐れもある。共同研究などで発表時に使った言葉を利用することになると思う。

<今後のスケジュールについて>

- 今後のスケジュールについて検討したい。
→ 7月の終わりから8月の初旬にかけて次回の運営委員会を開催する予定。
→ 次回の運営委員会までには案を準備する。
→ ワークショップの開催時期は少し後ろにずらす形になる。また別日程にする形で日程調整する。

(4) 第3号議案：シンポジウム開催企画案について

今年度のシンポジウムについて、資料5に沿って企画案を説明し、議論した。

例年通り、午前中はオンサイト施設運営に関するチュートリアル、午後の前半は公的統計に関する企画セッション、午後の後半は研究発表という構成。

(主な意見)

<オンサイト利用のチュートリアルについて(午前)>

- 構成としては問題ないとする。「オンサイト開設の手続きのノウハウ」の講演者については、こちらで調整させて欲しい。
→ 承知した。
- 「オンサイト施設の設置、運用、将来の展望」については、最近オンサイト施設を設置した機関の担当者に経験を話してもらう予定。
→ 講演者については、バランスを考え、助成を受けて設置したオンサイト施設と自己資金で設置したオンサイト施設に依頼し、各15分ほどの講演がよいのではないか。
→ その方向で進める。
- チュートリアルのテーマとして、オンサイトの施設運営に携わっている方・オンサイト開設を予定している機関の方のみを対象とした場合、興味を持つ人が限定的になるのではないかと。オンサイトの利用者に対しても興味を持ってもらえるよう、オンサイト施設の方に質問できる時間等を設ければよいと思う。
→ 利用者の立場で施設運営側へ質問できる時間を設けると、オーディエンスが広がるのでよい。Q&Aのセッションを入れる方向で考える。

→ 回答者は、詳しいメンバーでないと厳しいのではないかと

→ Q&A の回答者については個別に相談する。

<わが国のデータのインフラ整備とデータベース化について(午後：第1セッション)>

- 「公的統計におけるインフラ整備」とあるが、局内では「データ整備」とする人が多い。「公的統計におけるデータ整備」という仮題で準備を進める。
- 公的統計に関する報告をもう少し増やしてもよいのではないかと。
 - 「公的統計のデータ整備」というのは共同研究で進めている話でもある。これらの関係している方々に声をかけるというのも一つの方法。
 - メタデータに関しては、マイクロデータのメタデータと統計表のメタデータと2つあると考える。メタデータの報告をもう少し増やしてもよいかと考える。

省庁における調査項目の標準化については興味を持っている方が多い。またメタデータの整備状況など色々な切り口があるのではないかと考える。

→ 午後の第1セッションでもう1件増やすのは時間的に厳しいのではないかと

→ 各時間を30分ではなく20分にする可だと考える。

→ 最初の報告の「公的統計におけるデータ整備」については、15分だと時間的に足りないと思われる。2コマにするか長めにするのかは検討したい。

→ 2件目から4件目の報告については時間を20分にする。また公的統計に関する報告をもう1件増やすよう検討する。

- データインフラ事業に関しては、候補者の講演可能な日程を確認する。
- 「メタデータ・データベースの整備事例」については、現在いくつかの案がでていますが、意見聴取をして再検討したい。
- 「メタデータの整備事例」については、連名かどうかも含めて検討してもらう方がよいのではないかと。
 - メタデータに特化すると内容的に寂しくなると思う。現在はいくつかリポジトリがあるが、特定の事業で整備したものをリポジトリとして整備して公開している。
 - 日本統計年鑑の統計表のPDF化やメタデータの整備などについても内容を検討して欲しい。
 - 日本統計年鑑の整備についても公的統計整備の一環として少し紹介ができると思う。
 - 内容については他のセッションとのすり合わせもあると思うので、また相談させてほしい。

<統計をめぐる諸課題に関する研究について(午後：第2セッション)>

- 報告は共同研究に関わっている方に個別にお願いし、成果や進捗を報告してもらうことになるかと思う。例えば経済統計に関わるプロジェクトについて話してもらう事が考えられる。

- 海外における統計に関する調査報告について、こういった場で話されてもよいのではないかと考える。
 - 海外統計に関する内容を調査しており、シンポジウムのような場で報告するのは意味のあることだと考える。ワークショップにもつながるため、擬似データ(合成データ)についての最新状況について話してもらうのがよいと考える。
 - 承知した。
- もし可能であればリモートアクセスの進捗・検討状況について報告してもらえると、オーディエンスにとって興味深い内容になると思う。
 - 誤解されてしまうリスクもあり厳しい。
 - 承知した。
- 次回の運営委員会までには、プログラムを全体の最終案に近づけていく。

(5) 第4号議案：次号 NewsLetter 記事案について

3月に発行した NewsLetter 創刊号について、資料6に沿って報告した。また次号の記事案について資料7に沿って説明し、議論した。

(主な意見)

- SSDSE の紹介について、内容的には統計データ分析コンペティション関係も含まれると思っている。ただし時期的には9月は難しいと思う。こちらでも考えてみたい。
- 特集2について、ワークショップの企画ができた段階で紹介することは可能か。
 - 承知した。

(6) 報告事項

<報告事項1> 統計関連学会連合大会企画セッション概要について

企画セッションの概要についてについて、資料8に沿って報告した。

<報告事項2> チュートリアル動画公開について

資料9(web表示)に沿って報告した。

<http://jmodc.org/videos/index.php>

- 今年度のチュートリアルセッションについても、公開できる内容に関しては動画公開を進めていきたい

(7) 意見交換

- 次回の運営委員会は8月に実施予定